

## 令和5年度1月定例教育委員会議事録

### 【日時】

令和6年1月19日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後4時00分

### 【会場】

辰野町民会館 104 学習室

### 【出席者】

9名

(辰野町教育委員会)

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

(事務局関係)

学校支援課長	小澤 靖一
学びの支援課長	福島 永
学校支援課長補佐	宮原 隆史
教育総務係	中沢 大輔

### 【傍聴者】

0名

## 【次第】

### 1 議事

### 2 協議

- (1) 【非公開】 学校運営上の諸課題
- (2) 【非公開】 教職員の人事異動（転出予定者）
- (3) 第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会について
- (4) 5年度教育課程の反省と6年度教育課程の方向
  - ①児童生徒数、学級数
  - ②教育課程
- (5) 6年度教育委員会関係施策の重点
  - ①学校支援課関係
    - ・学校関係の重点施策
  - ②学びの支援課関係
    - ・各係の重点施策
- (6) 6年度予算査定から
- (7) その他

### 3 報告事項

- (1) 市町村教育委員会連絡協議会（1月）報告
- (2) 県市町村教育委員会連絡協議会と県教委との懇談会報告
- (3) その他

## ○開会

### 1 開会宣言

### 2 会期の決定

- ・会期については1日とする。全員異議なし。

### 3 議事録の承認

- ・承認

### 4 宮澤教育長挨拶

年が明けて3週間程が経ちましたけれども、教育委員の皆様には今年も大変お世話になります。よろしくお願い致します。

さて、今年の1月1日の元旦にたつの海で「日本のど真ん中で初日の出を祝う」を合言葉に元旦ウォークが開催されました。新聞やニュースでも放送されました。50名近い町民が集まり、初日の出を荒神山で拝み、たつの海周辺を歩いて祖霊社へ初参り、そしてパークホテルでお雑煮を頂きました。辰年という事で辰野町の「辰」。全国1,718市町村の中で「辰」の字が使われているのが辰野町だけという事で、今年1年が辰野町の年になるのではないかと思っていたところ、午後に能登半島で大きな地震が発生し、まだ被害の全容がわからない訳ですが、そんな中で全国から支援したいという話が出ていますが、道路も寸断されていて、被災地でも支援を受け入れるだけの体制をとる事もできない厳しい状況にあります。辰野町でも早速、現地へ向かう準備をしておりましたが、行ってもなにもできないという状況で待機しているところがあります。今はチーム長野として長野県と市町村との合同チームとして参加する予定となっております。報道を見る限り、珠洲市や輪島市の状況を見ますと、東日本大震災より状況が厳しいのではないかと感じています。一方、地震大国である日本ですのでいつ近くで起こるか分かりませんので、他人事ではありません。ここで学んだ事を町の防災や或いは学校の防災教育に役立てていきたいと思っております。

話は変わりますが、明日は二十四節気の大寒でございます。1年で1番寒い頃という訳ですが、今年は暖冬という事で、雪よりも雨が続けている状況でありますけれども、今年の夏はどうなってしまうのか今から心配でもあります。

そんな中で、町内の小中学校では、この年末年始休業中に大きな事故等無く過ごす事が出来ました。3学期を元気にスタートする事ができました。それぞれスキーやスケート等の冬の行事に取り組んでいる学校もございます。休みが終われば学校が始まるのが当たり前でありますけれども、能登半島の被災地では当たり前でなくなってしまっている現実が一方ではあるという事。改めて普通の生活ができる事に感謝したい

と思います。

さて、今日の教育委員会では議事は御座いません。全て協議になりますけれども、人事の関係、今年度の反省、来年度の教育委員会の施策等が主なものになります。それではよろしくお願い致します。

## 5 議事

なし

## 6 協議

### (1) 【非公開】学校運営上の諸課題

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として『学校の様子及び運営上の諸課題』『1月校長会資料』を提示。

### (2) 【非公開】教職員の人事異動（転出予定者）

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として『辰野町内小中学校 教職員人事異動名簿（県費）』を提示。

### (3) 第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会について

- ・宮澤教育長より予定している内容について説明。
- ・アドバイザー（教育専門家）を教育関係アドバイザーと呼称変更予定。
- ・教育委員はあり方検討委員ではないので、当日は教育委員会事務局の後方に座席を配置する予定であり、基本的には意見をせずオブザーバーとなる。

### (4) 5年度教育課程の反省と6年度教育課程の方向

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として『辰野町内小中学校 今年度教育課程の反省』『令和6年度 学級編制と加配等』を提示。

#### ① 児童生徒数、学級数

川島小が1名減の複式学級。西小が全学年2クラス。東小は3学年が1クラス、もう半分の3学年が2クラス。南小は新入生18名を加えて全校100名。辰野中学校は3年生が5クラス、1・2年生が4クラス。

#### ② 教育課程

- ・コロナも5類に移行し、計画していた教育課程を予定通り実施できた事に感謝したい。運動会や音楽会をなどで児童生徒主体となり、本来の教育活動の姿を取り戻す事ができた。
- ・コロナ禍でICT化の環境整備を大きく進める事ができたが、ICT支援主事1名が

突然退職となり、やや ICT 支援に滞りが見られ、各学校でもタブレットを活用した授業にややブレーキがかかった感が否めない。

- ・ コロナ禍の影響で、長野県全体や全国では不登校児童生徒数が急増しているが、辰野町内小中学校では、不登校児童生徒数が急増する実態はない。
- ・ 全国学力学習状況調査から児童生徒の状況も極めて健全であった事が分かる。
- ・ 一人一人の個性・特性に応じた支援や指導をおこなう事を通して、上位生はさらに伸ばし、中間層は1段引き上げ、低位生や無気力・無意欲と思われる児童生徒に対しては学びのきっかけづくりや面白さ、基礎基本の指導をおこなう等個別的な指導や支援が、まだ大きな課題と考える。
- ・ コロナ禍の影響で、社会のあり様や人々の価値観が大きく変化し、学校教育に対する考えも様々出るようになった。文科省からも「不登校は問題行動ではない」とする事は理解できるとしても、極端な例として「学校教育に異議を見出す事ができない」という保護者が、長野県内の幾つかの市町村でも出てきていると聞きます。こういった事にどう向き合っていくかは難しい問題だが、柔軟な発想がポイントになってくると思われる。
- ・ 今年度「たつのご学舎」を開設しました。正式通級児童生徒はいないが、数名の児童が体験的に通級する事で気持ちを整理して教室に戻る事ができている。
- ・ 川島小では食が細い子が多い事もあり、食育に力を入れてきた。調理や地域の方の講演をおこない、命を頂く大切さを学ぶ活動をしてきた。来年は総ての行事が「閉校記念行事」となる。多忙な1年となる事が予想されるが、川島小で身に付けた力を存分に発揮して新たな環境で学び続けられるようにしたい。
- ・ 辰野西小では自己課題解決の取り組みを公開授業を通して実証する事ができた。授業ミーティングを中心に、職員の対話量を増やし、主体的に授業改善を進めていきたい。来年度は学校型「信濃教育会全県研究大会」の公開を予定。
- ・ 辰野東小では校内研究で算数と外国語の2つのグループによる研究を継続し、「探求する楽しい学び」を中心に授業づくりを進めてきた。外国語学習は来年度の教育課程の発表校になっている。学校行事の内容見直しは、「子どもの視点に立ち、子ども達にとって楽しい学校づくり」に繋がるもので、子どもの活躍できる場を増やす事ができる行事としていく。
- ・ 辰野南小では今年の学校目標を「うけとめよう」として、子ども達の生活の中で今の力で表現する友達の姿を正面から受け止めている。先生方も「うけとめる」場面を通して子ども同士のコミュニケーション力の高まりを感じている。
- ・ 辰野中学校では、自己課題を基に4グループで研究をしている。毎週水曜日にグループ研究をおこない、グループ内で授業を見合ったり、日頃の授業での悩みや課題を話し合ったりして進めてきた。数学、英語、社会の各研究授業ではグループの枠を超えて全職員に呼びかけ、自己課題に基づいた部分参観を促してきた。

4月から「プランニング・タイム」を導入した事により、家庭学習を自分で計画を立て実行する意識が出てきた。

#### <A委員>

不登校の関係ですが、「居場所」という言葉がでてきておりますが、居場所があるというのは凄く大事な事だと思います。「たつのご学舎」も役に立っていますし、中間教室等もあります。学校の中に不登校傾向の子どもが行けるような場が幾つかあるというのが、大事な事かと思うのですが、子どもによってここに行けば良いという場所は違うので色々なところで対応できるという先生の意思疎通があると良いなと思いました。

2点目ですが、学力について。私の息子が中学校にいた頃は学力の対曲線が2局になっていました。上位層と下位層になっているという状況でしたが、今はどうなのでしょう。分析してみないと分からないと思いますが、下位層にいると不登校に繋がるという可能性もあるので、そのあたりの子ども達をどうやって少しでも普通の正規分布曲線ではないですけども、ここに指導できないかと、特に中学生について思います。私の子どもが中学生の時に傾向が大きかったと思うので、今がどうなのか分析しながら、無気力や無意欲な子をどう伸ばしていったら良いか。凄く学力が高いとかではなく、できないで困ってしまうという子を救ってあげる必要があると感じました。

#### <宮澤教育長>

学校内に居場所を作るという事は本当に大事だと思います。先日も県へ行って各市町村の教育長と懇談をして、やはりそういった場所を設置したいという声が多く出ておりました。これが組織的にできているのは辰野中学です。ほっとルームがあって、ここに先生が必ずついて行って、所謂、校内フリースクールの様な場所になっています。中学でもそういった場所を組織的に整備してきていて、辰野中ではほっとルームと呼んでいます。小学校にもあれば良いですが、町費の職員を配置する必要等があるので、中々難しいところです。とにかく、来年度は各学校の目標の土台に「どの子にも居場所がある楽しい学校」「我が子も入れたくなる学校（学級）」「明日も行きたくなる学校」という目標を据えようと思っております。本来であれば教室が居場所になれば良いのだけれども、一人一人が居場所を見つけられるようにしたい。

前回の教育委員会の資料に不登校の子ども達の原因の中で、学校の捉えている不登校の原因と文科省が不登校になっている子どもから聞き取りをしたというデータから、学力というのは非常に大きいとなっていました。やはり勉強が分かると分からないでは本当に苦痛なのだろうと思います。普通はどんな環境でも正規分布の曲線になると言われていますが、これは100人位の人数では当てはまらないのだと思います。全国で何万人とデータがあると正規分布になるが、1つの学校ではまずならない。皆、

標準化してきてしまっているが、真ん中はないという状態です。

#### < B 委員 >

もう一つ、不登校の子がでないように先生方が、事務の先生や校務技師の先生等誰でも対応してくれるという指導を学校毎でおこなって頂きたいと思いました。あと先生方が問題ではないかと思いたすのが、関りが凄く少ないと思いたす。昔は学年会でその中で2～5人の先生方が普通の授業や行事の事に関わりをしておりますが、それ以外の人達関わっている事が少なくなっているのを教育会の事務局にいる時に感じましたし、自分が勤めている時にも感じていました。辰野西小で授業ミーティングというのをやっているというのは凄く良いなと思うのですが、もっと先生達で気楽に授業の話をしたり、子ども達の良さであったり、生徒指導の事だとか限られた2～3人の中だけではなくて、色々なところで話し合えると良いなと凄く思っています。

#### < C 委員 >

今、教育長とA委員のお話は先生側からのお話であると思いたすが、学力や不登校の問題というのは家庭にも課題があると思いたす。なので、学力分布図というのは、何年か前の委員会でも発言したと思いたすが、貧富の差であると思いたす。今後、中学校の部活というものが無くなると予想されていて、部活が得意で部活を気概に学校に行っている子もいて、そこも居場所の一つと考えていて、そこも失われる可能性がある。部活の移行は恐らく地域となる事は難しくて、どこかの団体が全国大会を作っていく形とすると、そこへ時間とお金を投下できる家庭は習い事ができて、スポーツもできる。塾も行ける。親にその関心が無くて、自分の趣味にお金を使うという親も沢山いる中で、そういった差が出始めている。そうすると親が子どもに対する関心が薄いと、褒められる事も少なくなり自己肯定感に繋がる。子どもはやはり親に褒められたいと思いたすので、そこは学校の先生達が今、一生懸命やってくれているのは分かるのですが、そこだけの片車輪では動かないというイメージを感じています。やはり地域を含めて、家庭・地域・学校でやっていく事が大事であると思いたす。先日、西小の下校の見回りに警察ボランティアで行くと、西小の子達が凄く明るく楽しそうに帰っていく姿を見て、凄く良かったです。子ども達同士の関係性も良さそうであり、学校の先生達の頑張りや地域や家庭がそこをきちんと理解する。先生達も自分達の学校だからという意識はあるのだと思いたすが、それだけだと上手くいかないと思いたすので、家庭の方から見るともっと子どもの事をやってあげて欲しいと思いたす。

#### < D 委員 >

一点、タブレットなのですが、中学生の娘が日常的に教科書、ノートの様に使用して、生徒会でも引継ぎを執行委員の先輩方とやり取りをしていたり、お休みの日

に先生にメールで質問をしてみたりしていて、先生方もお休みの日で対応して下さっていたので、申し訳ないと思いながらもタブレットはツールになっていると感じています。良い反面、娘のタブレットに接続するキーボードが時折、調子が悪いようで、使えないという事で、タブレットの画面上のキーボードをタッチペンで打っていたので、老朽化が始まっている心配がありました。学校でも何台もあるのだらうと思いますが、先生に上手に使うしかないと言われたようで、日常的に使っていたのでそれは痛むだらうと思いますが、お金が掛かってしまうと思いました。

#### <小澤学校支援課長>

修理代は結構かかります。もう導入してから5年程が経ちますので、また予算の関係の説明の際に話をしようと思っておりましたが、更新時期に来ていますが、今年はタブレットの更新できないかと思われます。修理をしながら使っていますが保険に入っていますが、段々年数が経ってきますと保険が効かないものも出てきますので、12月には12台程の修理代を補正予算で取りました。

#### (5) 6年度教育委員会関係施策の重点

##### ① 学校支援課関係（学校関係の重点施策）

#### <小澤学校支援課長>

学校の施設については環境整備が必要となり、毎年学校から提出される要望から優先順位を決めております。今は1次査定をおこなったところですが、まずは辰野西小学校の体育館の長寿命化ですが、建築費を見込んだ額よりも資材や人件費の高騰で、かなり大きな額になってきておりますが、現在は設計段階であります。それから東小については給食室の床がかなり傷んでいる為、優先してやりたいと考えています。南小では給食室のボイラーが調子の悪い状態が続いており、更新をしたいと考えております。中学校では第2体育館照明のLED化を年度始めから手を付けたいと思っております。それと生徒玄関前の砂利部を舗装したいと考えております。

2つ目はGIGAスクール構想ですが、1人1台タブレットの更新はもう1年先送りかと考えております。ただ、先生方が業務で使用されます校務系システムはリースが終了しますので、大きな金額を掛けて更新致します。それからデジタル教科書は英語については各学校で使用頂けます。6年度は算数・数学のデジタル教科書については全学校に配布はありませんが、配布が無い学校については町費で導入していき、検証を兼ねてやっていきたいと思っております。それからICTの支援主事ですが、これまで町の正規職員2名体制でおこなってきましたが、1名退職し、現在は会計年度任用職員1名を配置して、2名で対応しておりますが、これだけ色々なシステムが目まぐるしく変わっていきますので、できれば一部の業務

委託を考えていきたいと思いますが、これも各学校に常駐ではありませんが、1週間に1回程度を業者に委託して SE 又は支援員が入る事を考えておりますが、これはまだ予算に動きがありますので決まってからとなります。

それから3つ目ですが、辰野町では特色ある教育活動という事で、引き続き教育支援員、教育活動支援員に来て頂きまして、小学校高学年の教科担任制、英語あそびを充実させていきたいと思います。本年度まで英語あそびを担当して頂きました北川先生が小学校の教員免許を取得見込みとなりましたので、英語あそびプラス資格を持ってどこかの学校で本年度以上に子ども達に関わって頂く事を想定しております。それからほっとサポートですが、今年度並みの人員を確保していきたいと思います。それから来年度入学児童で教育支援委員会の判定で養護学校入学判定が出た児童ですが、保護者の意向で東小学校に入学を予定している児童がおります。日常生活全般で介助が必要であり、ほっとサポートでは賄いきれない為、介助員を充てる予定です。県へも問い合わせ致しましたが、県では対応できないという事で、町費で対応する予定ですので、会計年度募集で関心を頂いている方がおりますので、月曜日に面接を予定しております。

それからその他の事ですが、小学校教科書の全改定がされ、先生方の指導書が新しくなりますので、こちらも全学校で1,000万円程掛かる大きな事業になってきます。また物価高騰が続いておりますので、給食費の補助についても物価高騰対策として引き続き補助金を出していきたいと思っております。またその他の教育委員会の関係では、小中学校のあり方検討委員会が25日に第1回目が始まりますので、これに力を入れていかななくてはなりませんし、冒頭の教育長挨拶にもありましたように、学校に関わる支援主事が1人の体制ですが、業務を分担して頂いて2名体制という事を想定しております。

## ② 学びの支援課関係（各係の重点施策）

### <福島学びの支援課長>

学びの支援課関係では、生涯学習施設の老朽化があり、まずは町民会館の舞台関係で吊りものや照明関係が老朽化しているという事で修繕の希望があります。担当によると使用している照明が製造されていないという事で舞台のLED化をしたいというところで相当の額が掛かる見込みです。概算で設計を行って総額を掴みたいというところで要望しております。見えない部分で屋根もだいぶ傷んでいます。北半分は既に終わっていますが、もう半分を修繕したいという事です。体育関係では主なところは建設水道課で荒神山体育館を進めてもらっておりますけれども、細かいところで町民体育館とパークセンターふれあいの受変電設備もだいぶ老朽化していて、いつ飛んでしまってもおかしくないという指摘をされておりますので、電気関係の更新工事が必要になってくるという事と、荒神山球

場のLED化をしていきたいと思っております。来年度にできそうなものとしては荒神山のたつの海周辺のこもれび広場のトイレが使い勝手が悪いというお声がありますので、多目的トイレの改修を要望してやりたいと思っております。工事関係では美術館の第1展示室の右の拡張した多目的室がLED化できておりませんので、そのLED化が済めば、美術館はほぼ全てLED化が完了します。いずれにしても財政は厳しいので切られてしまうので、この内のどれかができるかというところ です。

それぞれの係の部分としますと、文化係ではこれまでも続けておりますシダレグリの再生事業という事で、昨年度に全面刈り取りをしているのですが、令和2年度におこなったところは生茂っている状態です。当初は3年位かけて刈り取って、4年目に不要な木を切ってしまうと、友の会の皆さんの活動で維持できるという話でありましたが、国からの補助金が少ないものから、少しずつやっていくとまた元に戻ってしまう事になっています。この先、どのようにしていくかという事もあります。来年度も再生事業という事で刈り取りをやって、来年度1年を掛けて保存管理委員会の先生方と相談しながら良い方法を模索したいと思えます。小野宿の町並みの保存という事で、補助金が無い中でふるさと納税を使って、一部景観の保全をやりたいという事で、まちづくり政策課と相談してふるさと納税を取り入れます。返礼品としてはグラバイの小口良平さんに話を持ち掛けて、小野宿を中心としたサイクルツアーを用意して、ふるさと納税を頂くという計画をしています。それと昨年に行っている人権関係の講演につきましても議会で質問されておりますけれども、LGBTの啓発に関する事として取り組んでいきたいと思えます。今の世の中の流れというものを町民の皆さんにも理解してもらわなくてはならないので、重要な課題かと思えますので、これは実現していきたいと思えます。

図書館については、これまでの恒例のイベントをやりながら、それに加えて昔の辰野朝日新聞等の古い新聞の原本を保存しているのですが、古くなって破れやすくなってしまっています。郷土図書なんかも傷んでいるところがあるので、デジタル化をしたいという事で、まだ紙をデジタル化するという前段のところ、どれをデジタル化していくかという選定して整理をするという事で来年度本格的にやっていく予定です。

美術館につきましては、先程の工事に加えて、例年通りの特別展、大きな美術展を2つ予定しているところであります。今、町の中で話題沸騰している「ひこね のりお」さんというカールおじさんの作者の方の展示会を7月頃に予定しております。それについては美術館の学芸員の思いとしては、町民が美術館に足を運んでもらうきっかけを作りたいという事で、今年の恐竜展もそうですが、強い気持ちがあるようです。そのきっかけづくりとして話題性のあるものと呼んで、

1階で展示をして、2階3階に芸術品や歴史的なものを展示しておりますので、1人でも多くの方に芸術に触れて頂く機会を増やす動機付けにしたいという事で企画を考えております。

あと、スポーツ関係ですが、スポーツ振興係につきましては令和10年に国民スポーツ大会が来ますので、辰野ではクレ射撃の会場として沢底の射撃場を使うので、それに向けての体制づくりをしなくてはならないので、国民大会準備室というものを作る予定で1人会計年度職員を配置して、県と連携して準備していくという展開になっていきます。直接、予算的には出ていませんけれども、部活動の地域移行についても、来年度に教育長と相談して小学校の直接対象になる保護者に地域移行の説明をさせて頂きながら、少しずつ町民にも理解して頂く事を進めながら、どのようにしたら地域移行が実現できるか検討していかなくてはならないところです。

学びの支援課の一番の目玉となってくるのが、ウォーターパークの跡地利用ですが、今年度の3回目の検討委員会が来週ありますけれども、来年度はそれをまとめる時期になりますので、来年度末にはウォーターパークの跡地利用について方針を示し、計画を打ち出すという事になります。予算面には関わりませんが、事業として一番大きなものになります。基本的にはこういうものをと決めて出すものではなく、町民が求めているものがどういったものかというところをまとめて、作りかけみたいなものになってしまいましたが、その時々で必要なものを充実させていくという流動的な形で事務局側は考えていて、その辺を含めてあり方検討委員会の皆さんで議論を積み重ねて頂こうと思います。

## (6) 6年度予算査定から

### <小澤学校支援課長>

何年も言われておりますが、町の財政状況が大変厳しいのですが、これから2次査定が始まります。なんとか予算確保していきたいと思いますが、教科書改訂に伴う指導書の更新と、校務系システムの更新、それから西小体育館工事に大きな金額が掛かりますので、財政状況と相談していきたいと思います。とりあえず学校の要望が少しでも叶えられるようにしたいと思いますけれども、工事と備品関係につきましては配当される予算の中で、学校とも相談して優先順位をつけて執行していきたいと思います。

### <福島学びの支援課長>

先程もお話した通り、予算の面では厳しいと言われておりますので、工事関係はほぼ難しいのではないかと思います。生涯学習ですから公民館等を含めてソフト面が多いので、ハード面は無理でも、ソフト面では頑張っていこうと思っています。

#### <E委員>

1点よろしいでしょうか。川島小学校の学校日誌が無いのです。昭和10年から。今年のもはさすがにあるのですが、学校日誌というのは貴重な資料でとても大事なものだと思います。そういったものもきちんと保存していく事が大切ではないかと思ひます。とても大切なものだと思ひますので他の学校でも確認して頂いて、大事にして頂きたいと思ひます。

#### <福島学びの支援課長>

その辺についても実施計画の中で、公文書館というのは要望しています。検討委員会を作りたいという事で予算を要望しているのですが、なかなか予算を貰えないので、ここまで来てしまっているのですが、行政としてなくてはならないものですので、そういうものの組織を作って、管理したりする資格を持つキュレーターという学芸員より上の資格を持つ人を1名入れてしっかり管理して活動していくものを作っていかななくては行けないと思ひます。どのくらい先にできるか分かりませんが、言い続けて実現したいと思ひております。

### 7 報告事項

#### (1) 市町村教育委員会連絡協議会（1月）報告

- ・宮澤教育長より説明。
- ・資料として『1月市町村教育委員会連絡協議会（報告）』を提示。

#### (2) 県市町村教育委員会連絡協議会と県教委との懇談会報告

- ・宮澤教育長より説明。・資料として懇談会にて宮澤教育長が提案した『不登校児童生徒への対応について』を提示。

#### (3) その他

##### <小澤学校支援課長>

1点、能登半島地震に関わって、文科省から被災した児童生徒が転入してくる場合の、学校への受け入れについて弾力的な取り扱いをして欲しいという通知が来ております。東日本大震災の時はどうであったか分かりませんが、こちらに避難してくる家族がいましたので、もしそうした方がいれば、本来であれば教育委員会に議事として挙げさせて頂く事ですが、国の手引書の手順によって事後の手続きになる事もあるかもしれませんので、辰野町では町営住宅4戸、それから民間の住宅も被災者用に提供できると県に報告してあるようですので、今後そのような事例があった場合には、とりあえず事務局の方で進めさせて頂き、後で教育委員会に挙げたい

と思います。教科書等も無償で提供するよう通知がありましたので、対応していきたいと思います。

## 8 閉会